

発行—— 一般社団法人 日本統計学会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F 公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局

Tel & Fax: 03-3234-7738 編集責任—西郷 浩 (理事長)/村上 秀俊 (庶務理事)

伊藤 伸介 (広報理事)/古隅 弘樹 (広報委員)

水野谷 武志(広報委員)

振替口座—00110-3-743886

銀行口座―みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次							
1.	巻頭随筆:統計リテラシーとは何か	6.	2017年11月統計検定の成績優秀者				
	北村行伸… 1		西郷 浩… 8				
2.	2018年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第二報)	7.	統計検定合格者の声 赤平昌文… 9				
	笛田薫・鎌倉稔成・汪 金芳…3	8.	理事会・委員会報告(2018年1月27日) 12				
3.	第12回日本統計学会春季集会の報告	9.	社員総会報告				
	西郷 浩・山本 渉・	10.	博士論文・修士論文の紹介 17				
	玉置健一郎・永井義満…4	11.	新刊紹介20				
4.	Springer Series in Statistics 出版計画の	12.	教員公募20				
	募集について 国友直人…6	13.	学会事務局から 20				
5.	ISI 東京大会記念基金運営委員会からのお知らせ	14.	投稿のお願い 21				

1. 統計リテラシーとは何か

北村 行伸(一橋大学経済研究所)

統計学界にとっては朗報だと思うが、情報通信 革命の最終段階に入って、コンピュータが人間社 会のみならず、自然界や人工知能が生み出す情報 までを、リアルタイムで収集し、多くは分析まで 行うということが現実になりつつある。その中で、 集められる多くの情報は画像や音声情報、文字情 報に加えて、数値情報である。これらを総称して ビッグデータと呼び、ビジネスや行政、研究開発 など様々な分野で用いられるようになってきた。

統計学やより広い意味での情報学の分野に対して、ビッグデータを用いた分析ができるデータサイエンティストの需要が高まっており、滋賀大学、横浜市立大学などがデータサイエンス学部の創設を行ってきた。また、これまで、統計学者を育成してきた伝統的な経済学部や理学部、教養学部、

統計数理研究所などでも、この新しい波に乗って 人工知能や機械学習、ビッグデータ分析などへ対 応した研究・教育体制に徐々に移行しようとして いる.

各種のセンサーやモニター、インターネット通信などから自動的に集められる情報が1年間に蓄積される量は、人類がこれまでの文明の中で積み重ねてきた全情報量を軽く超えるようになると言われている。冷静に考えればわかるように、人類が歴史を通して厳選し、そして死守してきた貴重な知的遺産と、ほとんどノイズと思われるビッグデータ情報のコンピュータ上での記憶量を比べても意味がない。むしろ、ここにビッグデータ時代の課題があるとも言える。すなわち、ビッグデータは、それを全て有用な情報として分析するので

はなく、大半のノイズから、有益なシグナルを探し出したうえで、利用するということになり、そのための効率的な手法を探すということが当面の課題となっている。これは、まさに、鉱山で金やダイヤモンドを探し当てるようなもので、莫大なマイニングから、得られるごく少量の希少鉱物を探し出す効率的な手法がいまだに確立されていないように、ビッグデータのマイニングにも決定的な方法はまだない。

そもそも、我々が統計情報として使ってきた統計の大半は、統計調査の目的があり、その対象を母集団から抽出し、その標本を統計分析することで、調査で知りたかった事実を確認するということを行ってきた。これは多分に演繹的な手法である。それに対して、我々が目にしているビッグデータは、特定の目的や理論に基づいた調査というよりは、人間や機械の動作を客観的に記録し、そこからビジネスに結びつく情報を抽出するという帰納法的な発想に基づいている。我々は、これら性格の異なるデータを前にして、それをどのように補完的に利用すればいいのかが問われているのである。

同時に、政治家や官僚の間でも、人工知能やビ ッグデータへの期待が高まっており、その一つの 表れとして、政府でも統計エビデンスに基づく政 策形成. いわゆる Evidence Based Policy Making (EBPM) の導入が強く奨励されるようになって きた. これまで統計分析に基づいた政策形成を行 ってこなかった省庁でも、政策立案時点での事前 検討、政策実施後の事後検証などすべての政策過 程において統計を中心にしたエビデンスに基づい た議論を行うことが求められるようになってきた. もちろん. 数値的な目標や成果が設定しやすい政 策もあれば、数量化になじまない政策もある. ま た, ビッグデータやインターネット・モニターを 使った調査で、機動的な情報を得ることに価値を 見出している省庁もあれば、伝統的な統計調査の 枠組みの中で統計分析を遂行しようとする省庁も あって当然である.

政府の統計委員会でも統計精度の向上を目指し

た統計制度のありかたについて、昨年夏以来、かなり踏み込んだ議論を行ってきた。とりわけ、統計人材の確保と育成が喫緊の課題として挙げられてきた。その際、どのような人材が本当に必要かということが議論になったが、簡単に言えば、統計リテラシーの高い人材ということになるのではないだろうか。

私見になるが、統計人材として我々が求めているのは、以下のような人物である。経済や社会の幅広い統計問題を、どういうデータを使って、どういう手法で分析すればいいのかが、適切に判断できる人。また、その統計の収集の仕方や標本サイズの決定などに知見のある人。

これは、統計人材に限らず、美術でも音楽でも、 学問でも商取引でも共通しているが、その分野に 精通し、その分野で価値のあるモノ、価値を生み 出す人物やアプローチを自然と見分けられること。 そういった人を目利きというのだと思うが、要す るに統計の目利きが必要なのである。

この目利きをどうやって育てるかは難しい問題 であると思うが、一つのヒントを与えておきたい. 私が日本銀行に勤めていた時に、一般職の短大英 文科卒の女性が統計分析のアシスタントをしてい たが、驚いたことに彼女は統計のエラーや分析上 の不整合性などを、大学院卒や一流大学学部卒の 総合職の男性職員よりもはるかに迅速に気づき修 正をしていた. それもたまたまではなく、継続的 に高いパフォーマンスを見せていた. 彼女は経済 学や統計学の教育を受けた形跡はなく. 独学で身 に着けたようであるが、重要なことは、扱ってい る統計がどういう性質のものであり、その規模や 動きを直観的に把握し、統計分析から導かれる結 論が適切であるかどうかを, 察知する能力にあっ たと思う. これは、オン・ザ・ジョブ・トレイニ ングで身についたものであるとも言えるが、個人 がどれだけその統計を理解し、その統計の目利き になるかということであると思う.

もちろん,データサイエンス学部には,統計の 有為な才能を育ててほしいし,統計行政の世界へ も人材を供給してくれることを期待している.た だ、私の経験は、統計の目利きを育てるには、な にかしら、統計に関わることになった人材に対し て「気づき」や「面白いと思う感性」を育み、統 計をシャワーのように浴びる環境に置けば、必ず しも統計学の立派な学位は必要ないかもしれない ということを教えてくれている。 有為な人材は意 外と身近にいるものである。

2. 2018年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第二報)

運営委員長笛田薫(滋賀大学)実行委員長鎌倉稔成(中央大学)プログラム委員長汪金芳(千葉大学)

今回で17回目になる2018年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会は応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の6学会主催、中央大学後援により開催する運びとなりました。初日の9月9日(日)はチュートリアルセッションと市民講演会を、一般講演などは2日目以降(9月10日(月)~13日(木))に、会場はいずれも中央大学後楽園キャンパスで開催いたします。

この第二報では、主に企画セッションの公募を ご案内いたします. 今後、連合大会のホームペー ジ

http://www.jfssa.jp/taikai/2018/ に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますの で、ご覧ください. (トップページは近日中に公 開予定)

1. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市 民講演会、チュートリアルセッション、企画セッ ション、コンペティションセッション、ソフトウ ェアセッション等を担当しています。統計関連学 会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是 非お知らせください。

また、企画セッションに関しては、今回もこれまで通り公募します。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画、英語によるセッション等のご提案を歓迎します。なお、

応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください. 企画セッションの申込みに際しては.

- 1) セッションのテーマとねらい
- 2) オーガナイザーの氏名・所属・連絡先
- 3) 予定講演者の氏名・所属・演題名・使用 予定言語(日本語または英語)

をメールにてお知らせください. 企画セッション 1件あたりの時間は120分を予定しています. 講演件数・講演方法などは, この時間の範囲で自由 に設定いただけます.

企画セッション応募締切り

2018年4月23日(月)17:00[厳守]

企画セッション応募先

kikaku2018 (at) jfssa.jp (at) を @ に置き換えてください.

担当責任者佐伯浩之(富士フイルム RI ファーマ株式会社)

2. その他の準備状況のご報告

2.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項は次の通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2018年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者(博士後期課程院生を含む)、または、講演時に学部学生や修士課程(または博士前期課程)院生(年齢を問いません)です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方

です. なお、研究報告の申し込み時点でコンペティション対象者は、主催6学会のいずれかの会員でなければなりません. ただし、申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます. コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プログラムを組むのが難しくなっています. したがって、今年度は申し込み順でコンペティション参加件数を制限することがあります. 審査は、報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います.

2.2 チュートリアルセッション, 市民講演会, ソフトウェアセッションについて

9月9日にチュートリアルセッションおよび市 民講演会を開催予定です.多くの市民や研究者の 方々にとって興味を持っていただける内容を企画中です. 皆様の積極的な参加をお待ちしています. また, 昨年と同様にソフトウェアセッションについても計画しています. 詳細は, 第三報でお知らせいたします.

2.3 一般講演申込,報告集原稿提出,事前参加申込について

一般講演や参加の事前申込み、報告集原稿提出 はホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬(予定)とし、それ以降、報告 集原稿提出および事前参加申込の締め切りを設定 いたします。確定した期日や具体的な企画は、 2018年5月上旬頃発行予定の第三報でお知らせい たします。

3. 第12回日本統計学会春季集会の報告

西郷 浩 (日本統計学会理事長) 山本 渉・玉置 健一郎・永井 義満 (企画・行事委員会)

第12回の日本統計学会春季集会は、早稲田大学の政治経済学部の歴史ある建物を懐かしみつつ未来に繋がるように新築された3号館を会場にお借りして開催されました。今回の集会も1つのプレナリー形式の特別セッション、4つの企画セッションとポスターセッションでプログラムが編成され、活発な議論が交わされました。

午前の特別セッションでは,野間久史氏(統計数理研究所)に「先端医学研究の発展を担うデータサイエンス」と題して,治療効果予測因子の同定の問題に現れる大規模多重検定問題や,ネットワーク・メタアナリシスに関する研究の成果のご講演を頂きました.また医療・健康科学領域における統計家の育成が急務であり,統計数理研究所が医療健康データ科学研究センターを新設したことも教えて頂きました.その後,指定討論者の赤平昌文氏と岩崎学氏との討論を含め,活発な議論が行われました.

ポスターセッションは昼休みをコアタイムとし,

学部生、大学院生、若手研究者、大学教員や企業の研究者まで多彩な方々が36件の発表を行いました。今年もコアタイムの前後に、ポスター発表者同士のポスターの説明や討議などの交流が行われていました。コアタイムには、来場者との熱心な議論により有意義な研究交流が取り持たれました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は坂口翔政氏(京都大学)、高部勲氏(総合研究大学院大学・総務省統計局)、中山優吾氏(筑波大学)の3名に、学生優秀発表賞は寺田亘氏(大阪大学)、水間浩太郎氏(大阪大学)の2名に授与され、懇親会において赤平昌文会長より表彰されました。(氏名は五十音順、所属には受賞時の所属を明記)

午後は2つの会場に分かれて、それぞれ2セッションが並行して実施されました。以下にオーガナイザーとセッション名を挙げます。椿広計氏(統計センター)「公的統計・改革の時代へ」、西郷浩氏(早稲田大学)「チュートリアル:機械学

習一深層学習とスパース推定を中心に基礎から最前線まで一」, 美添泰人氏(青山学院大学)「統計教育の新たな展開」, 中村和幸氏(明治大学)「データ同化の新展開」.

春季集会の全セッションの終了後は、大隈庭園に隣接する同大学の大隈ガーデンハウスで懇親会が開催されました。懇親会に先立ち、ポスター発表の授賞式が行われました。そして始まった懇親会では、セッションの議論の続きや会員相互の親睦・情報交換を行うことができました。なお、今年の春季集会の参加者は192名、懇親会の参加者は72名でした。

春季集会はオーガナイザーの先生方にセッションを企画して頂いています。並行して開催するセッションの数が少なく、じっくりと研究発表を聞くことができ、発表者と参加者の距離が近いのが、春季集会の特徴です。また若い世代の研究者に積極的にポスター発表をしていただき、そこでの質疑を通して、多くの方々の交流も生まれているように感じます。今回の春季集会も多くの発表者と参加者に恵まれました。お陰様で盛会のうちに終了することができました。最後に、本集会を成功裏に導いてくださった方々に感謝を申し上げつつ、今回の春季集会の報告を終えさせていただきます。次回の春季集会は明年3月9日(日)の開催を予定しています。皆様からのセッションのご提案をお待ちしています。

春季集会 URL:

http://www.jss.gr.jp/convention/spring12/

ポスターセッション優秀発表賞 受賞のことば

坂口 翔政(京都大学)

この度は優秀発表賞という栄誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。審査に携わられた先生方、大学院において日頃よりご指導いただいてきた西山慶彦先生と奥井亮先生に深く御礼を申し上げます。この度の受賞理由となった研究は、私が2017年度にペンシルバニア州立大学経済学部にて在外研究を行っていた間に主に取り組んできた研究で

した. 在外研究中は、ペンシルバニア州立大学経済学部の先生方から今回の研究に対して多くの有意義なコメントをいただきました. とくに、在外研究先での受け入れ研究者であった Keisuke Hirano 先生からは、今回の研究に対してたくさんの助言をいただきました. Keisuke Hirano 先生をはじめ、ペンシルバニア州立大学経済学部の先生方に心より感謝をお伝えします. 本受賞を励みとして、今後も研究に精進して参りたいと存じます.

受賞のことば

高部 勲 (総務省)

このたびは、第12回日本統計学会春季集会のポ スターセッションにおいて、優秀発表賞という大 変栄誉ある賞をいただき、光栄に存じます、大会 の運営及び審査に携わられた先生方に厚くお礼申 し上げます. また、社会人学生として在籍してい る大学院において、日頃から御指導いただいてい る統計数理研究所の山下智志先生に深く感謝申し 上げます、本発表では、異なる企業データベース を融合して有用な情報を持つデータベースを構築 する統計的マッチングの問題に関して. 多項ロジ ットモデルを用いた新たな手法を提案するととも に、主成分分析を用いた計算効率化のための手法 についても併せて検討しました。 今回の受賞を励 みに、今後、さらに大規模な実データを対象とし た研究を進めつつ、研究から得られた知識を公的 統計の実務に役立てるべく、より一層精進してま いります.

受賞のことば

中山 優吾(筑波大学)

この度は、ポスターセッションにおいて「優秀発表賞」という栄誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。審査をはじめとして、ポスターセッションを企画・運営して下さった大会関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。日頃から熱心に且つ厳格に指導して下さっている青嶋誠先生、矢田和善先生には、心から感謝しております。また、発表練習にお付き合い頂いた青嶋研究室の皆様にも、

この場をお借りして御礼申し上げます.本報告は,高次元データ解析でしばしば用いられているサポートベクターマシン (SVM) という判別方式について,その危険性を提起し,その解決策としてバイアス補正とチューニングパラメータの選択法を提案しました.提案手法の実装は簡単で,高次元データ解析の現場で使って頂ければと思っております.今回の受賞を励みに,青嶋先生からいつも言われている「意義ある革新的研究と社会への貢献」を実現できるように,これからも日々精進して参ります.

受賞のことば

寺田 亘 (大阪大学大学院)

この度は、栄えある賞にお選びいただき、誠に ありがとうございます. このような栄誉は私には 縁のないものと思っておりましたので、ただただ 驚いております. 今思うことは決して私一人の力 では成せなかったことであるということです。研 究活動において、多くの先生方、研究室のメンバ ーの支えがありました。学部4回生の頃から本格 的に研究に取り組むも、学会にて発表ができるよ うな成果をなかなか挙げられずにいた私を根気強 く導き、多くのことをご教授くださった皆様に心 より感謝申し上げます。 今後は学生としてではな く. 統計解析を仕事とする社会人として業務に取 り組み、そこで浮上してくる問題に対して研究の 可能性を見出すことで引き続き研究活動に励んで いきたいと考えております. 最後になりましたが. このような晴れがましい機会を与えていただいた, 春季集会の実行委員会の皆様に御礼申し上げます.

受賞のことば

水間浩太郎 (大阪大学大学院)

この度は、第12回日本統計学会春季集会の学生 優秀発表賞にご選出くださり誠にありがとうござ いました. 本発表の肝である計算代数統計は約4 年前に神戸大の青木先生の下で取り組み始めまし た. これ以降. 研究活動に入ってからは鹿児島大 の杉本先生や大阪大の濵田先生にご指導をいただ きながら研究を続けてきまして現在に至ります. 今日まで研究が続けられてきたことは、多くの先 生方からの優しい指導と、研究室のメンバーとの 連日のような熱いディスカッションのお陰です. 今回の発表にあたって支えていただいた多くの 方々にこの場を借りて感謝申し上げます。 今後は 今回の発表で頂いたコメントを参考に更に研究内 容に磨きをかけていきたいと考えております。最 後になりましたが今回の素晴らしい春季集会の開 催にあたり、準備や運営として陰ながら支えてい ただいた実行委員会の皆様に感謝申し上げます.



ポスターセッション優秀発表賞受賞者と赤平会長,西 郷理事長

4. Springer Series in Statistics 出版計画の募集について

1. 経 緯: Springer 社 よ り「Springer Series in Statistics」に日本統計学会シリーズ(JSS-Springer Series)を刊行する提案があり、日本統計学会では2014年3月7日の社員総会の決定を経てJSS-

JSS-Springer 委員会 国友 直人 (明治大学)

Springer 委員会が発足,英文書籍の出版を開始しました.

2. 出版形態:学術誌に掲載する論文とは異なり

「日本統計学会の名称を使う英語刊行物シリーズ」であり、1冊50頁~125頁程度の小冊子(例えば講義録、1本の論文には収まらない規模の研究報告など)、2015年より出版を開始しています.JSS-Springer 委員会による提案審査の後、原稿の扱いなど具体的な出版作業については Springer 社が行います.Springer 社は冊子体と e-Book 体で公刊していますが、特に後者に力を入れ、Springer 社が契約している世界中の大学・研究機関・図書館などに配信されています.このシリーズの長所としては1つの論文としてはページ数が多すぎる研究報告、講義録、あるいは日本語の大部でない書籍のほぼ英訳、などが想定され、Springer の出版物として世界中の大学、図書館、研究所などで広く閲覧されることです.

- 3. 条件:書籍としての原稿料は250ユーロ(別に日本統計学会に150ユーロ)であり、e-Book 形式などで Springer から世界中の主要な大学、図書館、研究機関などに配信されます。
- 4. 実績:「JSS Research Series in Statistics」は 1 冊 目 の Kohei Ohtsu, Hui Peng, Genshiro Kitagawa (2015) "Time Series Modeling for Analysis and Control: Advanced Autopilot and Monitoring Systems," Springer から始まり、下記を含む11冊が既に Springer より出版されています.
- Gareth William Peters, Tomoko Matsui (Eds.)
 (2015) "Theoretical Aspects of Spatial-Temporal Modeling"
- Yoko Tanokura, Genshiro Kitagawa (2015)
 "Indexation and Causation of Financial Markets"
- Gareth William Peters, Tomoko Matsui (Eds.)
 (2015) "Modern Methodology and Applications in Spatial-Temporal Modeling"
- Toshio Sakata (Ed.) (2016) "Applied Matrix

- and Tensor Variate Data Analysis"
- Toshio Sakata, Toshio Sumi, Mitsuhiro Miyazaki
 (2016) "Algebraic and Computational Aspects of Real Tensor Ranks"
- Toshimitsu Hamasaki, Koko Asakura, Scott Richard Evans (2016) "Group-Sequential Clinical Trials with Multiple Co-Objectives"
- Yuichi Mori, Masahiro Kuroda, Naomichi Makino (2016) "Nonlinear Principal Component Analysis and Its Applications"
- Masafumi Akahira (2017) "Statistical Estimation for Truncated Exponential Families"
- Yuzo Hosoya, Kosuke Oya, Taro Takimoto, Ryo Kinoshita (2017) "Characterizing Interdependencies of Multiple Time Series"
- Akihiro Hirakawa, Hiroyuki Sato, Takashi Daimon, Shigeyuki Matsui (2018) "Modern Dose-Finding Designs for Cancer Phase I Trials: Drug Combinations and Molecularly Targeted Agents"
- 5. 募集:引き続き書籍の提案を募集しています. 出版を希望される著者は情報(著者,タイトル,アブストラクト,可能なら目次,など所定の形式があります)を準備する必要があります. (サンプル Chapter の作成や原稿の準備にはかなりの時間がかかることが予想されますので,書籍化の構想がある場合には早めにご提案することが望ましいと思われます.)なお書籍の内容は統計学に関連する幅広い分野を扱っていますが,2018年3月現在でのJSS-Springer編集委員は国友直人,竹村彰通,北川源四郎,樋口知之,狩野裕,濱崎俊光,松井茂之,大森裕浩,岩崎学,赤平昌文です.直接の連絡先は学会事務局 (email:shom@jss.gr.jp) にお願いします. 近い将来に出版を希望される会員からのご連絡をお待ちしています.

5. ISI 東京大会記念基金運営委員会からのお知らせ

日本統計学会臨時社員総会(2018年3月3日開催)において、本委員会の運用規則が変更されました。主な変更は、事業内容に以下の2つが追加されたことです。

(1) 若手研究者に対する奨励賞

ISI WSC またはそのサテライト会議において報告する日本の若手研究者に対して授与する賞(副賞として渡航費用に相当する金額を授与).

- (2) 日本における ISI 関連会議の開催
- (1)の奨励賞の最初の機会として、ISI WSCKuala Lumpur (2019年8月) における研究報告に関して、2018年9月に公募を開始する予定です。

委員長 赤平 昌文(日本統計学会会長)

詳細は後日お知らせします.

(2)の実質的な内容は、日本国内で開催される ISI 関連会議の開催に対する助成金の支給となります。(2)について助成金の申請を検討される場合には、日本統計学会 ISI 基金事務局が設置されるまで理事長にお問い合わせください。

助成金は、社員総会の議を経て決定されます. なお、現在のところ、第10回国際統計教育大会 (ICOTS10) お よ び Data Science, Statistics & Visualization (DSSV2019) (WSC (ISI) 2019の サ テライトカンファレンス) への助成が決まってお ります.

6. 2017年11月統計検定の成績優秀者

西郷 浩 (日本統計学会理事長)

2017年11月26日に第11回目の統計検定が6試験種別で行われました。以下に、各試験種別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1級「統計数理」

最優秀成績賞(S): 岡澤太志, 永井潤平, 町田 龍昭, 山口大器

優秀成績賞(A): 井上智喜, 甲斐下英一, 下り 藤亮太, 高畠泰斗, 高見真宏, 中村誠, 水田宙, 李夢然, 渡邉知樹

1級「統計応用

最優秀成績賞(S): 天野智仁, 古勝大智, 山口 大器

優秀成績賞(A):井上雄介, 小林健了, 酒見昌

宏, 櫻井智章, 永井潤平, 平松雄司, 船井俊宏, 松永眞章

2級

最優秀成績賞(S):新井宏和,五十嵐康太,太田敦,貝沼稔夫,笠井美希,風見秀樹,木谷聖人,関口知代,髙橋智貴,寺尾廉平,東郷諭,松永直哉,守田真澄,柳瀬康雄

優秀成績賞(A):稲岡雄介,井上僚,衣袋健司, 内山繁喜,円丁直樹,大音智弘,大下優一,岡 田朝貴,奥村朋哉,片山芳明,久保田直人,倉 田行伸,坂口哲也,佐藤貴也,関谷憲生,谷野 元彦,手塚忠則,塘由惟,中西英光,馬俊珍, 橋口令,土師浩平,福井高志,古田久美子,松 本健吾,丸山達也,宮本敬三,森久,森山友和, 柳本健,山田直輝,湯浅公貴,若松弘晃

3級

最優秀成績賞(S):植草隼弥, 岡部豪, 岡部将也, 奥村草太郎, 後藤聡子, 杉田理緒, 田邊創一, 手塚忠則, 中野玲羅, 姫路貴士, 藤澤稜, 九山琴理

優秀成績賞(A):青未空,字野光雄,梅本幸宏,沖根亮祐,小野響子,岸透,園田泰造,舘知津,千葉正太,樋口恵悟,平田賀一

4級

最優秀成績賞(S):春日一彦, 高本秀孝, 福田 善雅, 森田陽香

優秀成績賞(A):沖田光正, 北嶌昌夫, 木次令

統計調査士

最優秀成績賞(S):安部理恵,石井聖爾,川上和秀.小池映之,塚本高浩,宮川絵里香

優秀成績賞(A):市川玲子,衛藤勇史, 岡野秀夫,落合大輔,及部裕輝,小池哲司,高地哲史,小村哲也,澤村達郎,白須肇,関口知代,相馬亮子,津田吏江子,長代亮,中村将大,中村悟,野津直樹,長谷川友太,畑和弘,三田匡能,宮本亮,森山友和,山田誠,山本浩司,渡邉聖也

専門統計調査士

最優秀成績賞(S):石井聖爾,塚本高浩,根本 朗生

優秀成績賞(A):小村哲也, 平山宰, 與儀宗徳

7. 統計検定合格者の声

赤平 昌文(日本統計学会会長)

1級「統計数理」合格

統計検定を通して統計学の基本的な事柄をより深 く体系的に学ぶ

岡澤 太志さん (テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社)

現在, 私は統計を使う仕事をしています. この 統計検定は会社の先輩の紹介で知りました.

大学時代は統計学を専攻しておらず,統計検定 は統計学を体系的に学び修める良い機会だと思っ たため. 受験をしてみることにしました.

受験の準備をするに当たり、公式テキストと公式問題集 [2014~2015年] を活用しました。統計検定1級の日程を6月と勘違いしていたこともあり、公式テキストを4月から読み始めました。このテキストは章ごとに独立しているため、1ヶ月ほどかけて電車などの隙間時間で面白そうなところから斜め読みしていきました。その後、日程が11月末であることに気付いたため、一旦準備を中止し、10月に再開しました。10月中に公式テキストを再度きちんと読み直し、11月に入ってから公式問題集 [2014~015年] の2年分の問題を全て

解きました. その上で残りの時間を使い, 理解が 甘いと思われるところを重点的に見直して受験に 臨みました.

受験してみて,ある程度の手ごたえはあったため統計数理,統計応用(理工学)いずれも合格ラインは超えたかなと思いましたが,記述式のためにどの程度の記述が求められているのかが不明瞭なところもあり,多少不安もありました.

実際に統計数理,統計応用(理工学)両方の合格通知が来たときには安心しました. それに加えて統計数理ではS評価をいただくことができて嬉しかったです.

今回の統計検定を通して、統計学の基本的な事柄をより深く体系的に学ぶことができました。今後は数理統計学のより深いところを学んでいくと同時に、応用を意識して日々の仕事に磨きをかけていきたいと思います。

1級「統計応用」(理工学分野)合格 現代社会においてはビッグデータ解析など統計学 の知識が必要.

山口 大器さん (東京大学理学部物理学科4年)

インターンをしている会社の社員さんから統計 検定を紹介していただき, 受験することにしました.

統計学については大学1年生のときに履修した 基礎統計という科目で少し勉強しただけで、知識 があやふやな状態が続いていましたが、実験の解 析などでも必要になる機会があり、改めて勉強し ておきたいと思っていたので統計検定は統計学の 勉強をし直す良い機会になりました。

勉強の際は1年生のときの基礎統計の教科書と 公式テキストを通読し、試験の1週間前くらいか ら過去間を解き始めました。公式テキストを読ん でみるとモーメント母関数などの今まで知らなか った強力な手法を学ぶことができ、非常に楽しく 勉強できました。

私は物理学科に所属しているので、統計応用については理工学分野を受験しました. 受験の結果、統計数理と統計応用いずれもSランクで合格することができ、統計学について勉強した内容がきちんと定着していることを確認できました.

現代社会においてはビッグデータ解析など統計 学の知識が必要とされる現場が増えてきているように感じています. 統計検定の受験によって幅広い応用範囲を持つ統計学という学問の理解を深めることができ, 非常に意義がある経験でした.

2級合格

もっと統計について知りたい

山田 直輝さん (一橋大学商学部経営学科4年)

大学のゼミではマクロ組織論という分野を中心に学習しているのですが、研究論文を読むたびに統計的な知識の無さを感じていました。統計の知識は大学卒業以降にも役立つだろうと日ごろから考えていたのもあって、統計検定2級の試験をペースメーカーとして統計の学習を始めることに決めました。

大学では統計の講義を受講したことが無かった のですが、2級の範囲が大学初級程度というのを 見て、当初はある程度自信を持っていました. し かし、いざ2級の範囲を勉強し始めてみると、自分がいかに統計データをいい加減に認識してきたのかが明白となりました。例えば、日常的に使われることも多い「平均」や「偏差値」といった用語も、定義や性質を確認してみると「こんな意味があったのか」と驚くことが多かったです。学習を進める中で特に苦労したのは、「検定」の範囲です。なかなか理解できず、がむしゃらに練習問題を解くこともありました。ただ、2級の範囲は基本的な理解を問う良問の出題が多く、勉強が進むにつれて統計学という学問分野への理解が深まるのが感じられ、楽しく勉強することができました。

今回無事に2級に合格することができ、嬉しい気持ちもあります。しかし、それ以上に「もっと統計について知りたい」と感じています。というのも、2級の範囲は統計分析を読み解く上での土台という色彩が強く、統計データを批判的に検討したり自ら統計分析をデザインしたりするためには更なる学習が必要だからです。今後も学習を続け、次は準1級に合格できるよう頑張っていきたいと思います。

生命科学における統計学の重要性 久保田 直人さん(九州大学 システム生命科学 府 一貫性博士課程3年)

私は大学において生命科学分野の研究を行って おり、専門は情報生物学 (バイオインフォマティ クス) です.

近年の生命科学は革新的な技術の発展に伴い, ゲノムを始めとする様々な種類のビッグデータが 凄まじい勢いで蓄積され続けています.

しかし、データの解析自体はもちろん、複雑なデータ解析・統計処理を行っている論文を正しく 読み、理解できる人は、生命科学の分野ではかな り少ないのでは?と感じています.

こういった背景から、これからの生命科学において最新の知見を正しくインプットし独創的なアイデアを生み続けるためには、統計学の素養が必須になると感じ、今回は2級の受験を決めました.

元々統計学を体系的に学んだ経験がなかったこともあり、最初は過去問を解いてみてもわからないところだらけでしたが、教科書等を使いながら少しずつ理解を進めました.

また、普段論文を読んでいるときに統計処理に 関してわからないことがあればその都度基礎まで 遡って調べる、ということをしていたお陰で、応 用を理解することができ、統計学の全体像を掴む ことができました.

生命科学分野で研究を行う方には統計検定の受験をおすすめします.

今後は準1級・1級の合格を目指して勉強を続けていきたいと思います.

統計調査士合格

統計リテラシーは年齢・職業を問わず様々な人に とって必要なもの

宮川 絵里香さん(三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社)

- ●統計検定をどこで知ったか 職場の上司からの紹介で、統計調査士の試験があ ることを知りました。
- ●統計検定を受験した動機

国・自治体の計画策定に係る調査業務の中で公的 統計データを扱うため、統計に関する体系的知識 を実務に活かしたいと思い、統計調査士を受験し ました。

- ●受験に当たってどのような準備をしたか 受験にあたっては過去問集を繰り返し解いて基本 知識を身に付けました.主な基幹統計・一般統計 に関しては、各統計の所管省庁のホームページで 必要事項を学習しました.その他,統計調査士参 照基準項目表を確認し、理解が不十分な項目は一 つ一つ調べて内容を整理することで、出題範囲の 知識の漏れがないように対策してきました.
- ●統計検定を受験してどのような感想を持ったか 試験を通じて得られた公的統計に関する知識は、 特定の調査・分析業務の中にとどまらず、日頃イ ンターネットや新聞等で目にするデータを読み解 く中で大変役に立つものだと感じました。統計リ

テラシーは年齢・職業を問わず様々な人にとって 必要なものであり、たとえば地域づくり・まちづ くりにおける意思決定といった場面においても重 要となるのではないかという問題意識を持つよう になりました。

●今後,他の種別の統計検定を受験する希望の有 無

専門統計調査士を受験したいと考えています.

●統計検定に対する意見,要望 統計学を実務で活かしていくための試験・研修等 を今後も実施していただけると幸いです.

専門統計調査士合格

これまでのキャリアの集大成としてのトライ 根本 朗生さん((株) サイバー・コミュニケー ションズ)

現在はWEB広告系の会社でデータ分析をやっておりますが、以前はリサーチ会社(まだ DtoDの時代)にいたこともあり、一貫してデータ分析ベースの戦略プランニングに従事してきたので、これまでのキャリアの集大成として専門統計調査士の資格を取得しようと思い、統計調査士と専門統計調査士のダブル受験にトライしました。無事、両方に合格でき、専門統計調査士の方では優秀成績賞をいただくことができて嬉しく思います。

試験の準備はテキストが無いので苦労しましたが、過去問を集中的に問いてわからないところをネットの情報などで補強していきました。内容は大きく分けて、リサーチの幅広い知識、公的統計の知識、統計解析スキルの3分野かと思います。リサーチの現場から久しく遠ざかっているので現場の常識みたいなところが一番苦労しましたね。以前と考え方が変わっていることも多いですし、統計解析は、多変量の基本とアウトプットの解釈がわかっていればよいかなと思います。

昨今,「ビッグデータ」や「データサイエンティスト」という言葉がもてはやされていますが, その実態はいろんなレベルで捉えられており,問 われるスキルや領域も様々です.しかし,それが データを量的に扱うものであれば必ず統計解析の スキルや理解は基本として必要ですし、このよう な資格が一つのものさしになるべきではないかと

思っています.

8. 理事会・委員会報告(2018年1月27日)

一般社団法人 日本統計学会 理事会議事録

日時: 2018年1月27日(土曜日)午後0時~午後1時

場所:東京理科大学神楽坂キャンパス1号館14階 応 用数学科ゼミ室

理事の総数 13名 出席理事の数 13名 監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者:

理事:赤平昌文会長,西鄉浩理事長,中野慎也(庶務),村上秀俊(庶務),山下智志(会計),青嶋誠(会誌編集欧文),佐井至道(会誌編集和文),伊藤伸介(広報),山本渉(大会・企画・行事),大森裕浩(国際),中谷朋昭(国際),松田安昌(渉外),稲葉由之(渉外)

(以上13名, カッコ内は役割分担) 監事:岩崎学, 中西寛子, 中野純司

第1議案 2018年度事業計画について

西郷理事長より、資料に基づき、2018年度事業計画 の提案がなされ、審議の上、承認された.

第2議案 2018年度予算について

西郷理事長より2018年度予算案が提示され、山下会計理事より資料に基づいて詳細の説明がなされた。未確定の事業があるため、2月に修正、審議されることが説明され、承認された。

第3議案 健康科学研究ネットワークの入会について

西郷理事長より,統計数理研究所から健康科学研究ネットワークの入会の依頼があった旨の報告があり,審議の結果,入会を承認し,社員総会で報告することになった.

第4議案 経済学会連合からの補助について

西郷理事長より、資料に基づき、日本経済学会連合の外国人学者招聘滞日補助への申請について説明がなされた。昨年より1学会1件までとなっていることから、統計連合大会で開催される日台韓合同セッションの際

の招聘費用を申請することが提案され、承認された.

第5議案 ISI東京大会記念基金運営委員会について

· ISI 東京大会記念基金の助成金の交付について

西郷理事長より、資料に基づき、ISI WCS 2019のサテライト会議として開催される第10回国際統計教育大会(ICOTS10)、Data Science、Statistics & Visualization (DSSV2019) に関して助成金の申請があったことが報告され、助成金の予算で公認会計士の監査を受けることを条件に申請を認め、社員総会に諮ることが承認された

· ISI 東京大会記念基金運営事業の件

西郷理事長より、ISI東京大会記念基金運営事業に関する事務処理をシンフォニカに業務委託することが提案され、承認された。

第6議案 赤池メモリアルレクチャー賞に関する協定 締結について

西郷理事長より、赤池メモリアルレクチャー賞の運営で協力することに関して、統計数理研究所と協定を 締結することが提案され、承認された.

第7議案 名誉会員の承認について

西郷理事長より、資料に基づき、名誉会員に1名の 推薦が提案され、社員総会で審議を諮ることが承認さ れた

第8議案 会員の入退会

西郷理事長より,回覧資料に基づき入退会者が紹介され, 承認された.

一般社団法人 日本統計学会 委員会議事録

日時: 2018年1月27日(土曜日)午後1時30分~午後

場所:東京理科大学神楽坂キャンパス1号館14階 応 用数学科ゼミ室

出席:理事13名, 監事3名, 計16名

赤平昌文会長, 西郷浩理事長, 中野慎也, 村上秀俊, 山下智志, 青嶋誠, 佐井至道, 伊藤伸介, 山本渉,

一般社団法人 日本統計学会

2018 年度事業計画

 $(2018.4.1 \sim 2019.3.31)$

- 出版編纂事業
- 和文誌の発行
- 和文誌2号[第 48 巻シリーズ] 第 1 号(9 月),第2号(3 月)]を発行する。 Iapanese Journal of Statistics and Data Science の編纂への参加・協力
 - 3 5
- No.175 (4月), No.176 (7月), No.177 (10月), No.178 (1月) を発行する。 会報の発行
- 統計学に関わる書籍を刊行する。 4.
- 11. 内外学界交流事業
- 日本統計学会第 86 回大会の開催

2018年9月9日~13日の5日間にわたり、中央大学後楽園キャンパスにおいて開催する。

統計関連学会連合大会の一環として開催する。

春季集会の開催 2 2019 年 3 月上旬に第 13 回春季集会を開催する。

研究分科会の活動 ∾. 活動中の以下の分科会に加え、新規に活動を開始する分科会を随時募集する。 現在,

「スポーツ統計分科会」(田村義保主査:2009 年 6 月発足,2021 年 5 月終了予定)

統計関連学会連合の事業推進に協力する、

4.

- 第2回赤池メモリアルレクチャー賞の事業に協力する。 5.
- 国際学会,国際シンポジウムに協力する。 9
- ・ISI東京大会記念奨励賞の授与
- ・第10回国際統計教育大会への協力
- ・Data Science, Statistics and Visualization~の協力
- 日本統計学会共同開催の国際セッションへの協力 ·台湾統計学会,韓国統計学会,
- 会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。

- 会員関係事業 Ε.
- 賞の授与

学会活動の活性化促進のため,以下の賞を会員等に授与する。

- 第23回日本統計学会賞
- 第 14 回日本統計学会統計活動賞

第 14 回日本統計学会統計教育賞

第 12 回日本統計学会研究業績賞

第 11 回日本統計学会出版賞

第32回日本統計学会小川研究奨励賞

各種委員会の活動 2 年2 回社員総会を開催する。

年4回理事会を開催する。

年1 回役員・代議員協議会を開催する。 その他の各種委員会を適宜,開催する。

- 2019-2020年度代議員,会長,理事長選挙を実施する。 33.
 - 広報活動の充実

メーリングリストの使用やホームページの充実により,各種情報発信を促進する。

入会者の拡大

春季集会等の機会を利用し,若手の研究者の拡大を促進する。

統計検定の合格者を対象とし,統計利用者の拡大を促進する。

- 啓発普及事業 ≥.
- 「統計検定」の実施

日本統計学会は,一般財団法人統計質保証推進協会が実施する「統計検定」の認定 団体となり,統計検定に関わる書籍を刊行する。

MOOCによる統計学講座の提供 2 MOOCによる統計学の講座を開講するとともに、講座に関わる書籍を刊行する。

	18年度予算	17年度予算	16年度予算	(単位 千F 備考
. 事業活動収支の部	▲ 14,395	▲ 1,453		=収入-支出=一般勘定増減+基金積立金増減
一般勘定	▲ 985	▲ 1,043	▲ 569	
60周年記念基金	▲ 250	▲ 250		出版賞・小川賞以外の副賞、学会活動補助
75周年記念基金	▲ 50	▲ 50		出版賞副賞
小川基金会	▲ 110	▲ 110		小川基金会は2014年度より予算化
ISI基金	▲ 13,000	0		ISI基金は2013年度より管理(実際には2013年度使用せず)
ICP基金 学会活動積立金	0	0	0	ICP基金は2013年度より管理
子云泊勁惧立亚	U U	U	0	
1. 事業活動収入	14,278	14,378	14,145	
会費収入	11,730	11,980	11,400	
名誉会員·正会員	10,900	11,100		会員種別の変更にともなう収入減
学生会員	330	280	200	
遡及請求分	500	600	600	
賛助法人費	950	950	1000	
団体会員費	280	280	280	
科学研究費補助金	0	0	0	1
雑収入	1,318	1,168	1,465	
会誌購読料 利子収入	450 18	450 18	700 15	
	650	650	700	
その他	200	50		 著作権許諾料他, 助成金など
経済学会連合会補助金	0	0	0	
removes a second residue book about \$110 m/rd about		<u>_</u>		
2. 事業活動支出	28,673	15,831	15,264	
印刷費	6,460	7,710	8,050	
会誌(48巻1,2号)	3,200	6,200	6,800	和文誌2号分の印刷
英文誌	2,000			英文誌のうち、統計学会負担分
会報(175-178号)	760	810	750	
名簿印刷費	0	200	0	
その他	500	500		会誌・会報の封筒作成等
大会等開催費	1,340	1,410	1,250	
春季集会開催費	1,100	900		懇親会開催経費を含む
春季集会懇親会収入	<u>▲ 270</u>	0	200	<u>学会会計には入金されないのでマイナス費用として計上</u> 懇親会招待,表彰状.副賞(60周年記念基金充当)
	250 50	250 50		
	110	110	110	75周年記念基金充当 小川基金会充当
その他	100	100		
研究部会費	0	0		(17年度から)研究部会は募集停止
研究分科会費	250	250		(17年度から)1件2万→5万に変更
学会運営会合費	410	340	270	
社員総会、役員・代議員協議会	120	50	70	(18年度より、有料の会場を想定した金額に変更)
特別委員会	50	50	60	
統計教育委員会	20	20	20	
会誌編集委員会	20	20	20	
理事会	200	200	100	
事務費	761	769	280	
会費徴収費	481	489		ネット決済の手数料(3.5%+70)
一般事務人件費	40	40	40	
校正編集事務人件費 発送事務人件費	80 90	80 90	80 90	
事務用品	40	40	40	
その他	30	30		 事務員の交通費、収入印紙等
学会事務業務委託費	2,592	2,592	2.592	ナルスマヘルス、ハハトドルオ
通信・郵送費	1,610	1,610	1,460	
会誌送料	600	600	600	
会報送料	600	600	450	
名簿送料	10	10	10	
その他通信・郵送料	400	400	400	
役員旅費補助	500	500		理事会における理事の旅費等
各種分担金	150	150	150	
日本経済学会連合	35	35	35	
国際統計協会ISI	25	25	25	Ť
横幹連合 	50	50	50	
統計関連学会連合 ネットワーク維持費	40 30	40 30	40	 ドメイン使用料, 学会サーバー委託費, Web名簿維持費
スツトワーク維持賞 国際交流促進費	1,500	400		トメイン使用料, 学芸サーバー安託質, Web名溥維持質 3カ国連携(韓国、台湾)による連合大会招聘(150×7名)
国际父流促進 <u>貨</u> 統計検定関係費	1,500	400	200	
	0	0	0	
租税公課	70	70	70	
ISI 東京大会	13,000	0		ISI基金から:事務委託(200)ICOTS(5000)DSSV2019(7500)
	10,000	· ·		審査費用(300)
. 投資活動収支の部	0	0	0	
投資活動収入	0	0	0	
投資活動支出	0	0	0	
1. 予備費	10,000	3,000		ISIの新提案対応:会長・理事長裁量:支出合計には含めない

大森裕浩,中谷朋昭,松田安昌,稲葉由之,岩崎学(監事),中西寛子(監事),中野純司(監事)

<報告事項>

1. 欧文誌編集委員会

青嶋委員長より、欧文誌 JJSS の最終号が出版されたことが報告された。新ジャーナル JJSD の投稿状況、editorial board の状況についても報告があった。また、3月の春季集会で配布するためのチラシを Springer から送付してもらうことになった。

2. 和文誌編集委員会

佐井委員長より、和文誌47巻2号に掲載の論文を入稿した旨の報告と、48巻1号の編集状況についての報告があった。また、小川研究奨励賞の選考スケジュールについても報告があった。

3. 大会委員会

山本委員長より,連合大会の案内が会報に掲載された旨が報告された。

4. 企画・行事委員会

山本委員長より、春季集会の会場の確認をしたこと、4つの企画セッションが決まったこと、および広報活動状況が報告された.

5. 庶務委員会

報告事項なし

6. 広報委員会

伊藤委員長より,会報174号が1月末に刊行される旨の報告があった。また,Webに春季集会,連合大会のアナウンスを掲載した旨も報告された。

7. 国際関係委員会

12月に台湾・韓国・日本の大会が開催された旨と、 来年度は日本の連合大会で開催する順番になっている 旨が報告された. 台湾と結んでいる別の協定に関連した会議が6月に開催されることも報告された.

8. 渉外委員会

松田理事より、イタリア統計学会からの赤平会長招聘の件に関する状況が報告された。また、稲葉委員長より11月の統計検定の合格者の声と成績優秀者名に関する記事を4月の会報に出す旨が報告された。

<審議事項>

1. 欧文誌編集委員会 審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

審議事項なし

5. 庶務委員会

村上委員長より、統計教育委員会から会場費等を支払うために運営費増額の要望がある旨の問題提起があった。審議の結果、春季集会の一環として春季集会の予算で開催していく方針とすることが承認され、6月の社員総会で審議することになった。

6. 広報委員会

審議事項なし

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

松田理事より,東北大学経済学部同窓会が集めた寄付金で新たな賞を創設し統計学会に運営を委託する計画があるとの報告があり,6月の社員総会までに検討することが承認された。

9. 社員総会報告

日時:2018年3月3日(土曜日)午後6時00分~午後7時30分

場所:統計数理研究所2階会議室1 (D222)

出席者: 赤平昌文会長, 西鄉浩理事長, 出席代議員: 足立浩平, 伊藤聡, 岩崎学, 大森裕浩, 大屋幸輔, 金藤浩司, 狩野裕, 鎌倉稔成, 川崎茂, 川崎能典, 栗木哲, 栗原考次, 西郷浩, 清水誠, 瀬尾隆, 高部勲, 竹內光悦, 竹村彰通, 谷崎久志, 田村義保, 椿広計, 中野純司, 西山慶彦, 樋口知之, 前園宜彦, 山下智志, 美添泰人, 渡辺美智子

定数の確認

赤平会長より、以下のように社員総会の決議の要件 が満たされている旨説明があった.

- (1) 社員の総数35名
- (2) 総社員の議決権の数35個
- (3) 出席社員の数(委任状による者を含む)33名
- (4) 書面により議決権を行使した議決権の数2個
- (5) これらの議決権の総数35個

オブザーバーの承認

赤平会長より、社員総会に次の5名が出席する旨説

明があり、承認された. なお、山下理事は代議員でも あるが、会計理事としても出席する.

山下理事(会計),中野理事(庶務),村上理事(庶務), 松田理事(渉外),中西監事

議事録署名人の提案と承認

赤平会長より、議事録署名人として狩野裕代議員、 川崎能典代議員に依頼する旨説明があり、承認された.

審議事項

第1議案 日本統計学会誌投稿規程の変更に関する件

赤平会長より、日本統計学会欧文誌が発展的に Japanese Journal of Statistics and Data Science に移行した ことに伴い、欧文誌に関する箇所を削除し、日本統計 学会論文誌投稿規程を変更する旨が資料に基づいて提 案され、承認された。

第2議案 日本統計学会和文誌の海外販売価格に関す る件

赤平会長より、海外在住の非会員への日本統計学会誌の販売価格について、これまで欧文誌が年間 \$55 (U.S.)、欧文誌と和文誌を合わせた場合は年間 \$82.5 (U.S.) で販売されていたが、Japanese Journal of Statistics and Data Scienceへの移行によって日本統計学会発行の欧文誌がなくなるため、和文誌の販売価格を年間 \$35 (U.S.) としたいとの説明があり、承認された.

第3議案 日本統計学会各賞の英文名に関する件

赤平会長より、日本統計学会各賞の英文名が正式に 決定されていないため、日本統計学会各賞規程の名称 項目に以下のように英文名を追加する提案があり、承 認された。

日本統計学会賞規程: JSS Award

日本統計学会統計活動賞規程: JSS Achievement Award 日本統計学会統計教育賞規程: JSS Education Award

日本統計学会研究業績賞規程: JSS Research Award 日本統計学会出版賞規程: JSS Publication Award

小川研究奨励賞規程: JSS Ogawa Award

第4議案 赤池メモリアルレクチャー賞選考委員会規 則に関する件

赤平会長より、日本統計学会欧文誌が発展的に Japanese Journal of Statistics and Data Science に移行した ことに伴い、赤池メモリアルレクチャー賞選考委員会 規則を改正する旨が資料に基づいて提案され、一部修 正の上、承認された。

第5議案 ISI東京大会記念基金運営委員会規則の変更 に関する件

赤平会長より、資料に基づき、ISI 東京大会記念基金 運営委員会規則の変更と、今回の変更で追加される奨 励賞に関する申し合わせについて提案があり、一部修 正の上、承認された。

第6議案 ISI 東京大会記念基金の助成金の交付に関す る件

赤平会長より、資料に基づき、第10回国際統計教育 大会(ICOTS10)を日本で開催するにあたり、ISI東京 大会記念基金助成金の申請があった旨説明があり、審 議の結果、申請どおり500万円を助成することが承認さ れた。

また、赤平会長より、資料に基づき、Data Science、Statistics & Visualization 2019 (DSSV2019) を ISI World Statistics Congress のサテライトカンファレンスとして日本で開催するにあたり、ISI 東京大会記念基金助成金の申請があった旨説明があり、審議の結果、申請どおり750万円を助成することが承認された。

第7議案 学会賞各賞の選考委員に関する件

赤平会長より、学会賞選考委員として栗木哲会員および吉田朋広会員が推薦され、承認された.

第8議案 名誉会員に関する件

赤平会長より、資料に基づき、美添泰人氏を日本統 計学会の名誉会員とする提案があり、承認された.

報告事項 (理事会報告)

1. 2018年度事業計画

西郷理事長より、資料に基づき、2018年度事業計画 について説明があり、一部修正の上、承認された.

2. 2018年度予算

山下会計理事より、資料に基づき、2018年度予算について説明された。

3. ISI 東京大会記念基金運営事業について

西郷理事長より、資料に基づき、ISI東京大会記念基金運営委員会の事業を委託する旨の報告がなされた。

4. 赤池メモリアルレクチャー賞に関する協定締結に ついて

西郷理事長より、資料に基づき、赤池メモリアルレクチャー賞に関する統計数理研究所との協定締結について報告がなされた.

5. 日本経済学会連合からの外国人学者招聘滞日補助 について

西郷理事長より,資料に基づき,日本経済学会連合の外国人学者招聘滞日補助を申請する旨が報告された.

6. 健康科学研究ネットワークの入会について

西郷理事長より、資料に基づき、健康科学研究ネットワークに入会する旨が報告された.

7. 会員の入退会

西郷理事長より、回収資料に基づき、会員の入退会

について報告がされた.

報告事項 (委員会報告)

1. 常設委員会における委員長・委員の交代・再任について

赤平会長より、資料に基づき、常設委員会の委員長・ 委員の交代・再任について報告された.

- 2. 臨時委員会における委員長・委員の交代について 赤平会長より、資料に基づき、臨時委員会の委員長・ 委員の交代について報告された。
- 3. 会費規程の改定に伴う返金について

赤平会長より、資料に基づき、会費規程の改定に伴 う会費返金について報告がなされた.

4. 会費減免申告書について

赤平会長より、資料に基づき、会費減免申告書が作成された旨が報告された。

5. 2018年3月開催の春季集会について

赤平会長より、資料に基づき、春季集会の開催について説明された。

6. 2018年度統計関連学会連合大会について

赤平会長より、2018年9月9日(日)~13日(木)に、2018年度統計関連学会連合大会が中央大学後楽園キャンパスにおいて開催される旨が報告された。

7. 日本統計学会各賞について

日本統計学会各賞の募集期間が2017年12月11日(月)~2018年3月30日(金)であることが確認された.

報告事項 (その他)

1. スポーツ統計分科会

西郷理事長より,資料に基づき,2017年度の活動が 報告された.

2. 次回日程等

次回社員総会が2018年6月9日(土)13:30から開催されることが案内された.

10. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名(2) 学位の名称(3) 取得大学(4) 論文題名(5) 主査または指導教員(6)取得年月の順に記載いたします。なお、(6)取得年月を省略しているものはすべて2018年3月です。(敬称略)

博士論文

- (1) 土居正明 (2) 博士 (理学) (3) 中央 大学 (4) Bayesian decision making and its relation to frequentist methods (5) 小西貞則
- (1) 江口翔一 (2) 博士 (数理学) (3) 九州 大学 (4) Model comparison for LAQ models with dependent observations (5) 増田弘毅
- (1) 森山卓 (2) 博士 (数理学) (3) 九州 大学 (4) Nonparametric inference based on kernel smoothed statistics (5) 前園宜彦
- (1) 佐野文哉 (2) 学位の名称:博士(理工学) (3) 成蹊大学 (4) 統計的因果推論と医学研究への統計手法の適用 (5) 岩崎学
- (1) 兵藤孝次 (2) 博士 (理工学) (3) 成

蹊大学 (4) Statistical quality control for constituent yields in cigarette smoke (5) 岩崎学

● (1) 大前勝弘 (2) 博士 (統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) Statistical Learning by Quasi-linear Predictor (5) 間野修平・江口真透

修士論文

- (1) 遠藤紘平 (2) 修士 (理学) (3) 筑波 大 学 (4) Two-sample tests for high-dimensional covariance matrices via the extended cross-data-matrix methodology (5) 青嶋誠
- (1) 塚田悟史 (2) 修士 (理学) (3) 筑波 大 学 (4) Note on outlier detection for highdimensional data (5) 青嶋誠
- (1) 井澤慶信 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 臨床試験の被験者数を再設計す る簡便な試験デザインの提案 (5) 浜田知久馬
- (1) 江森健人 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 一般化傾向スコアに基づく二重 頑健推定量を用いた交絡の調整法 (5) 浜田知 久馬

- (1) 大久保竣祐 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 臨床試験における一般化 Wilcoxon 検定に基づく条件付き検出力の構築 (5) 浜田知久馬
- (1) 加藤凌輔 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 抗がん剤第 I 相試験における経 時測定データを利用した用量探索法の構築 (5) 浜田知久馬
- (1) 舛田優 (2) 修士 (工学) (3) 東京理 科大 (4) エンリッチメントデザインに中間解 析を設定する適応的試験デザインの提案 (5) 浜田知久馬
- (1) 味澤嘉和 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 3 群比較臨床試験における優越 性検定と非劣性検定の検出力を考慮した 2 段階試 験デザインの構築 (5) 寒水孝司
- (1) 関山英孝 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 高齢者の予後を悪化させる医薬 品の抽出における投与量の調整の意義 (5) 寒 水孝司
- (1) 中山拓人 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 動物実験代替法の性能評価の指 標に関する研究 (5) 寒水孝司
- (1) 町田龍之介 (2) 修士(工学) (3) 東京理科大学 (4) 生存時間解析を主解析とする臨床試験の試験期間の不確実性を評価する方法の構築 (5) 寒水孝司
- (1) 田村安徳 (2) 修士 (工学) (3) 大阪 府立大学 (4) 非正規母集団における高次元デ ータのためのプロフィール分析 (5) 栗木進二・ 兵頭昌
- (1) 羽山美優 (2) 修士 (理学) (3) 中央 大学 (4) 非負値行列分解におけるランク選択 (5) 酒折文武
- (1) 望月優志 (2) 修士 (理学) (3) 中央 大学 (4) 角度目的変数に対する方向回帰モデ リングの拡張 (5) 酒折文武
- (1) 石原渚 (2) 修士 (理学) (3) 中央大 学 (4) 項目反応理論におけるモデリングとそ の応用 (5) 小西貞則

- (1) 圓城寺啓人 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 部分空間法による多クラス識別機の構成と汎化性能の向上 (5) 小西貞則
- (1) 大屋拓磨 (2) 修士 (理学) (3) 中央 大学 (4) 基底展開法による関数回帰モデリン グ (5) 小西貞則
- (1) 霜田小百合 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科 大学 (4) A new nonparametric control chart for joint monitoring of unknown location and scale parameters (5) 村上秀俊
- (1) 白井純平 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科大学 (4) An application of kernel estimation in ranked set sampling (5) 村上秀俊
- (1) 西野拓哉 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理 科 大 学 (4) The asymptotic theory of the generalized Cucconi test (5) 村上秀俊
- (1) 渡邊英智 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理 科 大 学 (4) The weighted kernel density estimation for clustered data (5) 村上秀俊
- (1) 岩間いつみ (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科 大学 (4) Measure of departure from marginal homogeneity for the analysis of collapsed square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男
- (1) 久保裕太郎 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科 大学 (4) A measure of departure from partial marginal homogeneity for square contingency tables (5) 富澤貞男
- (1) 合田新平 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科大学 (4) Unrestricted normal distribution type symmetry model for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男
- (1) 佐藤駿 (2) 修士 (理学) (3) 東京理 科大学 (4) Decomposition of parsimonious independence model using Pearson, Kendall and Spearman's correlation for two-way contingency tables (5) 富澤貞男
- (1) 竹田憲人 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理 科 大 学 (4) Measure of departure from symmetry using cumulative probability for square

- contingency tables with ordered categories (5) 富 澤貞男
- (1) 寺元優太 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理 科 大 学 (4) On measure of departure from conditional symmetry for square contingency tables having ordered categories (5) 富澤貞男
- (1) 中野弘 (2) 修士 (理学) (3) 東京理 科 大 学 (4) Directional measure for marginal homogeneity in square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男
- (1) 根本大輔 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科大学 (4) Generalized diagonal exponent conditional symmetry model for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男
- (1) 有本周翔 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理 科 大 学 (4) Implementation of asymmetry models for square tables with ordinal categories (5) 田畑耕治
- (1) 藤澤健吾 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科大学 (4) Asymmetry models based on logit transformations for square contingency tables (5) 田畑耕治
- (1) 松島右京 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科大学 (4) Model selection via penalized optimization in square contingency tables with ordinal categories (5) 田畑耕治
- (1) 森佑太 (2) 修士 (理学) (3) 東京理 科 大 学 (4) On testing marginal homogeneity in square tables with ordinal categories (5) 田畑耕 治
- (1) 森本拓馬 (2) 修士 (理学) (3) 東京 理科大学 (4) On estimation of degree of departure from symmetry for square contingency tables (5) 田畑耕治
- (1) 野澤慎 (2) 修士(数理科学) (3) 南 山大学 (4) 多群ポアソンモデルにおける順序 制約がある場合のすべての母数相違に対する多重 比較法 (5) 白石高章 (6) 2018年2月
- (1) 丸山拓也 (2) 修士(数理科学) (3)

- 南山大学 (4) 生命情報処理における多重比較 法に関する研究 (5) 松田眞一 (6) 2018年 2 月
- (1) 田川聖也 (2) 修士(数理科学) (3) 南山大学 (4) 最適計画基準の評価法に関する 研究 (5) 松田眞一 (6) 2018年2月
- (1) 渡邊翔 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 文章の書き手の同定における深層 学習の適応に関する研究 (5) 松田眞一 (6) 2018年2月
- (1) 安西祐輝 (2) 修士(数理科学) (3) 南山大学 (4) 分割表における多重比較の可視 化ソフトウェアに関する研究 (5) 松田眞一 (6) 2018年2月
- (1) Rizky Reza Fauzi (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Error Reduction for Gamma Kernel Density and Kernel Distribution Function Estimators (5) 前園官彦 (6) 2017年9月
- (1) 大川真司 (2) 修士(数理学) (3) 九州大学 (4) 分布関数比のカーネル型推定とその応用 (5) 前園宜彦
- (1) 片山将 (2) 修士(数理学) (3) 九州 大学 (4) γ-ダイバージェンスに基づく情報 量規準について (5) 増田弘毅
- (1) 喜久山良弐 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) カーネル法とスパースモデリン グによる非線形回帰の変数選択 (5) 西井龍映
- (1) 小家亜斗吏 (2) 修士(数理学) (3) 九州大学 (4) 群の数が多いデータに対する線 形判別 (5) 廣瀬慧
- (1) 下木原敦 (2) 修士(数理学) (3) 九州大学 (4) 超過分布関数のカーネル型推定について (5) 前園官彦
- (1) 高野海斗 (2) 修士 (理工学) (3) 成 蹊大学 (4) 標本調査におけるオープンデータ の有効活用 (5) 岩崎学
- (1) 戸松真太朗 (2) 修士(理工学) (3) 成蹊大学 (4) 欠測データの統計処理法の精度評価 (5) 岩崎学

11. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●横幹〈知の統合〉シリーズ編集委員会編・遠藤 薫・寺野隆雄・佐藤彰洋・栗原聡著『社会シミュ レーション:世界を「見える化」する(横幹〈知 の統合〉シリーズ)』東京電機大学出版局, 2017 年9月, 1,800円 ●清水邦夫著『角度データのモデリング』近代科 学社,2018年1月,3,700円

内容紹介:「ISM シリーズ:進化する統計数理 7」として,方向統計学の枠組みで,角度データ (円周上のデータ)の取り扱いから始めて球面, トーラス,シリンダー,ディスク上のデータのモ デル化を解説.

12. 教員公募

会員からの投稿による教員公募情報を掲載します。

●機関: 秋田県立大学経営システム工学科/職種: 助教・1名/専門分野: 経営工学, データ分析, マーケティング分析/締め切り: 2018年5月

14日(月)必着/採用予定年月日:平成30年10月 1日以降のできるだけ早い時期/詳細は http:// www.akita-pu.ac.jp/file_out.htm?serial_no=2631でご 確認ください.

13. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2018年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。(http://www.jss.gr.jp/fee/)。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに,氏名と住所を以下にお伝えください.手続きに必要な書類が送付されます.

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F 公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax: 03-3234-7738 E-mail: shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました. 謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます.

福本 理 会員

入会承認

右京芳文, 金涌佳雅, 高野健太, 谷口哲也, 前野純一, 内閣府経済社会総合研究所 (敬称略)

退会承認

赤堀真司, 門田陽宏, 上浦基, 黍迫和正, 坂元慶

行, 笹原妃佐子, 孫康, 高島忠, 玉井康治, 津田 光一, 中村忠, 府川哲夫, 福島利夫, 間瀬茂, 箕 輪大介, 宮﨑誠也, 日本アイ・ビー・エム(株)

(敬称略)

現在の会員数(2018年3月12日)

 名誉会員
 16名

 正会員
 1,396名

 学生会員
 67名

 総計
 1,479名

 賛助会員
 18法人

 団体会員
 7団体

14. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益である と考えられるものなどについて原稿をお送りくだ さい、以下のような情報も歓迎いたします.

- ●来日統計学者の紹介 訪問者の略歴,滞在期間,滞在先,世話人など をお知らせください.
- ●博士論文・修士論文の紹介(1) 氏名(2) 学位の名称(3) 取得大学(4) 論文題名(5) 主査または指導教員(6) 取得年
- 月 をお知らせください. ●求人案内(教員公募など)
- ●研究集会案内
- ●新刊紹介

著者名,書名,出版社,税込価格,出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

●会員活動紹介(叙勲・受章,各種受賞等) できるだけ e-mail による投稿,もしくは、文 書ファイル(テキスト形式)の送付をお願い致し ます.

原稿送付先:

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1 中央大学経済学部

伊藤 伸介 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp (統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL:
 - http://www.jss.gr.jp/
- 統計関連学会ホームページ URL: http://www.jfssa.jp/
- 統計検定ホームページ URL: http://www.toukei-kentei.jp/
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス: meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス: koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス: shom@jss.gr.jp

